

れいへいしかいどう
例幣使街道



とくがわばくふ げんな
徳川幕府は元和2年(1616年)、いえやす ほっ
すると、くのうざん ほうむ
葬りましたが、よくとし
山にかいそう
改葬しました。

このため、日光へのさんけい
参詣をめざすかいどう
街道が
多く開かれました。その中の一つで、栃木を
通る街道がれいへいし
例幣使街道とよばれました。

この街道を通り日光にいたるまでを普通、
例幣使街道と呼んでいます。正確には
くらがのしゆく
倉賀野宿 (群馬県高崎市) をきてん
起点として、
天明—犬伏—富田—栃木—合戦場—金崎
そして日光西街道とのぶんきてん
分岐点であるにれぎ
楡木ま
でをいいます。げんざい
現在の栃木市では、大平から
西方までの地域を通っています。

(「栃木市の文化財」栃木市教育委員会から)

